

3.8 国際女性デー 集会アピール

世界経済フォーラムが2019年12月に発表した国際的な男女間格差を示すジェンダー・ギャップ指数2020は、日本は153カ国中121位で、先進国で最下位となっています。

そのような中で、政府は2020年12月、第5次男女共同参画基本計画を策定しました。

計画では、各分野での女性参画の拡大や、様々な課題で女性の視点を取り入れることは謳われたものの、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という、いわゆる「202030」は断念され、次の目標は曖昧な記載にとどまりました。

先日話題になった「女性の参加する会議は長い」…この言葉こそが日本の現状であり、世界の人々の意識から遅れていることが明確になったのではないかと感じます。

そして同時に、もし、他国において、あのような発言があった際に、「おかしい」と声をあげる日本人はどのくらいいるのでしょうか。日本は本当に遅れていませんか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、雇用の喪失や、育児・家事等の無償労働の負担増、深刻化するドメスティック・バイオレンス（DV）など、影響はとりわけ女性の側に大きく出ています。

浮き彫りになった男女間の様々な格差が、今後さらに拡大する懸念もあります。

このような状況を克服し、世界の潮流である「203050」から取り残されないためにも、これ以上の停滞は許されません。

私たち労働組合も、組合活動における女性参画の促進と、雇用における男女平等、均等待遇の実現、固定的性別役割分担意識の払拭に、より一層取り組む必要があります。

連合は、2021春季生活闘争を通じて、男女別の賃金実態の把握と格差の是正、あらゆる暴力やハラスメントの根絶、差別の禁止に取り組めます。

また、仕事と生活の調和をはかるため、だれもが安心して両立支援制度を利用できる職場環境の整備を進めます。

私たちは、本集会に集まった一人ひとりの行動で、すべての人たちが性別にかかわらず、人権が保障され、平等に、安心して働くことができる社会をめざします。

2021年3月6日
3.8 国際女性デー
連合山口女性委員会

